

海野宿にぎわいづくり事業

取組に至る背景・事業の目的

海野宿は北国街道の宿場の町並みが現在まで保存されており、昭和 62 年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。町並みを保存するために、各家の補修や道路・水路改修が実施され、今日まで景観が維持されてきた。しかし、海野宿は観光客を迎えるおもてなしの意識や、次世代を担う若者層の景観保存に対する意識があまり高くなく、近年空き家も増えてきていることから、今後、海野宿の景観をどのように保存していくのかということが気がかりであった。

海野宿の景観を次世代へつないでいくためには、人と人の交流が感じられる地域づくりが必要であり、地域への愛着や誇りを高め、若者層をはじめとした地域住民が景観の保存に参画してくれるような取り組みが必要であると考えた。

事業内容

海野宿には「海野格子」と呼ばれる格子戸の家々が続いており、地域の雛飾りをこの格子越しに展示することで、来宿者と地域住民が早春の海野宿をともに楽しむことができるイベントを開催した。また、「海野宿の保存」をテーマにした講演会やワークショップを開催することで、地域住民の景観保存に対する意識を高めるとともに、住民の様々な意見を「海野宿の将来ビジョン」としてまとめた。

■海野宿ひな祭り（平成 28 年 2 月 27 日（土）～3 月 13 日（日））

海野宿の 32 軒に協力をいただき、海野格子越しに江戸から平成の雛人形を飾り付けた。

地元の子どもの手を手を借りながら「稲の花」100 本を作成し、海野宿全世帯に飾り付けを行うなど、早春の海野宿を地域住民も楽しみながら、来宿者へのおもてなしを行うことができた。

お祭り期間中に 2 日間行った歓迎イベントでは、1,800 人分の甘酒やあられをふるまい、地元の子供や来宿した子供が参加して、折紙の雛人形で流し雛を行った。また、夜には街道に灯籠を並べ、一夜限りのライトアップを行った。

■海野宿の保存をテーマにした講演会の開催及びビジョン作成（平成 27 年 6 月 27 日（土））

講師：NPO 法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」香山篤美氏

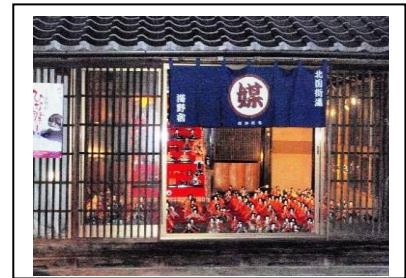
演題：「歴史的文化遺産を活用したまちづくり」

参加者：重要伝統的建造物群保存地区住民 47 名参加

ワークショップ開催：平成 27 年 7 月 23 日 21 名参加

地域での話し合い：3 回開催

ビジョン作成：ワークショップ等での意見を将来ビジョン「海野宿にあつたらいいな」としてまとめた。



【海野格子越しの雛飾り】

事業効果

ひな祭り・講演会等は実行委員に応募があった地域の若者と一緒に準備を行い、幅広い年代で取組んだ事業となった。また、今後の海野宿の保存について、住民同士の話し合いがなく今に至っていたが、初めて話し合いをする機会をつくることができ、課題を明確にするとともに共通の問題意識を持つことができた。（2 月～3 月に海野宿を訪れた観光客数）平成 27 年 前年比 124%・平成 28 年 前年比 188%

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は地域ばかりでなく、ひな祭りイベントを広くツアールート等に組み込んでもらえるように取り組みたい。今後も地域住民を中心として一緒に活動してくれる人を増やすことで、飾る雛人形を増やし、おもてなしイベントを充実させ、年中行事として毎年開催する海野宿の一大イベントとしたい。

また、ビジョンを実現するための取組を推進し、2025 年の開宿 400 年を目指して、海野宿を中心に地域を盛り上げるとともに、海野宿の保存に取り組みたい。

【選定のポイント】

海野宿ひな祭りに地域全体で取り組み、来宿者へのおもてなしや海野宿の保存・継承の機運を高めるとともに、住民同士が話し合う場をつくり、海野宿の将来像をビジョンとしてまとめた。

団体名	海野宿保存会（東御市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	東御市本海野 1098（海野宿歴史民族資料館）	事業費	903,159 円
		支援金額	626,000 円